

【総長海外出張報告】2018年8月28日～31日：ウズベキスタン

～タシケント工科大学との学生交流に関する覚書を締結～

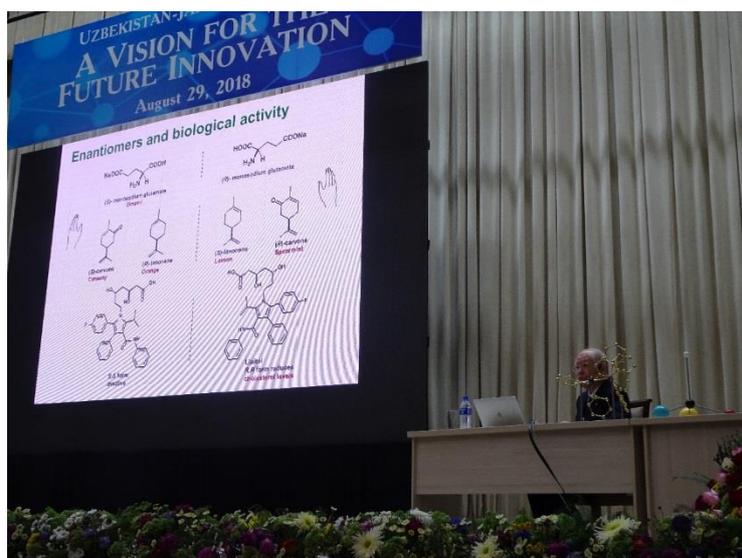
皆さんに今回のウズベキスタン出張について報告します。

1. 野依特別教授による講演会

8月29日、ウズベキスタンのタシケントにおいて、『Where am I from? Where are you going?』と題した野依特別教授の講演会が行われました。講演の内容は野依教授の生い立ちから始まり、ご自身の研究や、その研究成果の産業への応用、環境問題など、幅広いものでした。ウズベキスタンでは、ノーベル賞受賞者による初めての講演会であり、多くの聴衆が集まりましたが、特に若手研究者には印象的なようでした。



磯田アジアサテライトキャンパス学院長からの概要説明



講演する野依特別教授

2. タシケント工科大学との覚書の締結

これまで、本学とタシケント工科大学とは、イノベーションセンター設立を通じた人材育成支援における交流実績があり、今回は「学生交流に関する覚書」を締結することができました。



トゥラブジャノフ・タシケント工科大学長と

3. マジドフ高等中等専門教育大臣との懇談

マジドフ大臣との懇談では、先方からは野依教授の講演会についてお礼の言葉があり、私からは名古屋大学によるウズベキスタンへの法整備支援、YLP (Young Leaders Program) による学生の受入、ウズベキスタンにある名古屋大学の事務所の活動等について紹介し、ウズベキスタンと名古屋大学との学生交流について懇談しました。



4. アブドラフマノフ・イノベーション開発大臣との懇談

アブドラフマノフ大臣との懇談では、先方からはウズベキスタンのイノベーション戦略や科学の商業化、人材育成等について話がありました。私からはイノベーションについて、政府の GSTI（総合科学技術・イノベーション会議）で、私自身、非常勤議員として、毎週、協議をしているが、カバーする分野が多いこと、安倍総理のウズベキスタン訪問を契機とした名古屋大学によるウズベキスタンでの活動や、野依特別教授の講演会について紹介しました。



アブドラフマノフ・イノベーション開発大臣らとの懇談

5. アブドゥハキモフ副首相との懇談

アブドゥハキモフ副首相との懇談では、ウズベキスタンの大学への進学率を上げるために海外の大学がウズベキスタンに分校を作っており、このような方策により進学率を向上させていること、ウズベキスタンの学生が日本で学位を取得していることを歓迎することなどの発言がありました。私からは、アジアサテライトキャンパスや法整備支援などの名古屋大学のウズベキスタンでの活動や、これらの活動の総括として、今回、野依特別教授の講演会を開催したことなどを紹介しました。



アブドゥハキモフ副首相らとの懇談

6. 名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部

ウズベキスタンには、名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部があり、今回の野依特別教授の講演会に合わせて、同窓会を開催してくれ、野依特別教授と共に参加しました。この同窓会には、伊藤在ウズベキスタン日本大使も参加いただき、懇談をしました。



名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部での同窓会のひととき

7. 所感

今回のウズベキスタン出張は、私が総長に就任した 2015 年に 2 回出張して以来、3 年ぶり 3 回目の訪問でした。前回出張でお会いしたカリモフ大統領（1991-2015）は日本との交流を積極的に進められていましたが、突然、急逝され、現在のミルジヨエフ大統領に引き継がれており、1991 年の独立以来 2 代目の大統領ということになります。

ウズベキスタンは人口が 3,200 万人と中央アジアでは最大の国で、これからの発展が大いに期待されている重要な国でもあります。聞き及ぶところでは、新しい大統領は積極的に諸外国との交流を進める開放政策をとっており、政治、経済、教育、科学技術など、あらゆる分野での改革も意欲的に進めておられるようです。特に、教育の進行にはとりわけ強い関心をお持ちのようで、お会いした関係閣僚の皆様からも、そのような強いメッセージが伝わってきました。また、町の様子からも活気が伝わってきました。

名古屋大学とウズベキスタンとの関係は長年にわたっており、20 年以上にわたり法整備支援を行ってきました。また、2005 年には日本法教育研究センターをタシケント法科大学内に設置し、医療行政学修士コース（YLP）、アジアサテライトキャンパス（法学、医学）の設置、など、人材育成面で大きな貢献をしています。ウズベキスタンを代表する 5 大学と交流協定を締結し、今回新たにタシケント工科大学と学生交流に関する覚書を締結しました。これまでも、そし

て、現在も多くの優秀な学生が名古屋大学で学びそして社会に巣立っています。名古屋大学は日本の大学で唯一、ウズベキスタンでの大学事務所を開設することが許可されている大学であり、日本への留学フェアを組織するなど、ウズベキスタンとの学術学生交流に重要な役割を果たしています。

安倍首相が2015年に中央アジアを歴訪された時にも、私は拡大首脳会議に経済界の代表と共に出席させていただきました。その時にはイノベーション創出が大きな話題になっており、日本としては、これを支援する旨安倍首相が明言されました。これを受けてタシケント工科大学内にイノベーションセンターを開設することを目標にして、本学は主に人材育成の面で協力と支援をしてきました。今年から、この事業はJICAに引き継がれ新たな段階を迎えています。

歴史的にはウズベキスタンはシルクロードの要衝にあり、豊かな文化が花開いた地でもあります。平山郁夫さんが彼の地を題材に多くの作品を残していますし、第二次世界大戦後は抑留された人たちの一部がウズベキスタンに連れてこられました。人間として暖かい扱いを受け、各地に移送された抑留日本人の中で死亡率が少ない地域だそうです。また、日本人抑留者が建設した国立ナヴォイ劇場は、1966年のタシケント大地震の際、ほとんどの建物が倒壊する中でも崩壊せず、今に至っています。このことからウズベキスタンの人たちは当時から日本の技術の高さに尊敬の念を持っていたとされており、多くの人たちが親日感情を持っているともいわれています。

世界が大きく変わろうとしているこの時代にあって、中央アジアの中でのウズベキスタンの重要性は日増しに高まっています。日本が今後この国とどのように付き合いしていくのか、また、名古屋大学がこれまでの歴史を顧みながら、どのような未来をこの国と共創してゆくのか、いろいろな考えが頭の中を駆け巡りました。

最後に、今回同行させていただきました野依良治先生はウズベキスタンの若者、そして、研究者に素晴らしいメッセージを送られました。私も聞いていて大きな感動を受けました。お忙しい中、名古屋大学のデリゲートとして素晴らしい活躍をされた先生には、心から感謝したいと思います。